

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

		事務事業コード		523-01-02			
事務事業名		収穫祭開催事業		事務の種類			
				自治事務(任意のもの)			
担当部署名		観光課		連絡先			
				内線2742			
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	2	商工業・サービス業		款	7	商工費
	施策の方向	3	地域産業の活性化		項	1	商工費
					目	2	商工振興費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市来訪者及び駒ヶ谷地域					
	目的 (どうしたいか)	羽曳野市の特産品であるぶどうなどの地場産品を通じて、地域産業の振興、PR及び地域の活性化を図るとともに、駒ヶ谷地区の豊かな自然環境を多くの人に発信し交流を育む。					
	手段 (事業内容)	収穫祭実行委員会へ補助金の交付を行うとともに、実行委員会の事務局として、実行委員会の開催、事業実施内容の調整(軽トラ市などとの共同開催)などを行う。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	900	900	900
決算額	事業費	0	0	-
	特定財源等	0	0	-

《主な内訳(令和3年度決算)》

【事業費】	
会場設営委託費	0千円
警備員委託費	0千円
イベント謝礼等	0千円
広報費	0千円
運営費	0千円
駐車場借上料	0千円
【特定財源】	
なし	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	地域出店者数	単位	者	
指標の説明	ブース出店者のうち、駒ヶ谷地域の出店者数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		10	0	0
実績		0	0	-

《事業の参考数値等》

令和2・3・4年度ともに新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、未実施。

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	イベント参加者数	単位	人	
指標の説明	地域のPRを行えた人数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		2,500	0	0
実績		0	0	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	縮小・統合
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
<p>当事業は、市の特産品であるぶどうを主とした、駒ヶ谷・飛鳥地域の魅力を存分に楽しめるイベントを開催することにより、地域の賑わいを創出し、地域産業の振興や地域の活性化に結びつくことを目的としている。令和2年度、3年度ともにコロナ禍の影響で開催できなかったが、他イベントと共同で実施するなど、新たな開催方法を検討する必要がある。</p>	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
<p>観光課の位置づけを再検討する中で、実行委員会の存続についても検討し、他イベント(竹内街道関連)との統合や、コロナ禍やアフターコロナでも開催できるよう、オンライン開催等新しいイベントの形を検討していく。また、これまで農作物の最盛期と時期がずれて開催していたこともあり、特産品であるぶどうの最盛期を迎えた時期に開催し、最大限にPRできるように地元や観光局と調整していく。</p>

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

事務事業コード 531-01-01

事務事業名		軽トラ市開催事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先		内線2760	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	観光振興・都市間交流		款	7	商工費
	施策の方向	1	地域資源の活用と観光資源の創出		項	1	商工費
					目	3	観光費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市内外の消費者、生産者、商工業者					
	目的 (どうしたいか)	地域の枠を超えて、消費者、生産者、商工業者が一体となって参画・交流を深め、地域の賑わいを創出する。					
	手段 (事業内容)	羽曳野市内において、地域特産品(野菜・果物、飲食物、加工品、工芸品など)を軽トラックの荷台に載せて、生産者等が対面販売を行う事業を定期的で開催する。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	2,754	2,626	2,593
決算額	事業費	0	0	-
	特定財源等	0	0	-

《主な内訳(令和3年度決算)》

【事業費】
報償費 0千円
需用費 0千円
役務費 0千円
委託料 0千円
使用料及び賃借料 0千円
【特定財源】

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	事業実施回数	単位	回	
指標の説明	年間の軽トラ市イベントの開催数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	8	0	0	
実績	0	0	-	

《事業の参考数値等》

令和2・3年度ともに新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、未実施。
【事業費(令和4年度)】
※観光振興イベント事業費として予算措置
報償費 150千円
需用費 490千円
役務費 210千円
委託料 1,683千円
使用料及び賃借料 60千円

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	来場者数	単位	人	
指標の説明	年間の軽トラ市イベントへの来場者数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	20,000	0	0	
実績	0	0	-	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当でない。	C
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	見直す必要がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きくない。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	C
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題) 本市では、これまで観光施策のひとつとして本事業に取り組んできたが、実質的に観光及び市特産品のPRとしての要素は低く、重ねて対外的な観光誘客のイベントとはなっていないことから、今後のあり方を考える必要がある。	

今後の改善内容	(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 観光振興イベントは、今後一般財団法人大阪はびきの観光局が実施主体となるため、観光課の位置づけを再検討する中で、民間のノウハウを活かした効果的なイベントの在り方を探り、従来の賑わいの創出だけでなく、観光PR・シティブロモーションの推進を主眼に、新たなコンテンツの開拓・誘客の拡大も含め、本市の魅力を市内外に伝える事業へと見直す。
---------	---

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

事務事業コード 531-01-02

事務事業名		七夕祭開催事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先		内線2760	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	観光振興・都市間交流		款	7	商工費
	施策の方向	1	地域資源の活用と観光資源の創出		項	1	商工費
					目	3	観光費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	竹内街道及びその周辺の資産等					
	目的 (どうしたいか)	魅力を再生・創造し、広く発信することにより、地域に対する愛着や誇りを醸成し、地域の活性化を促進する。					
	手段 (事業内容)	古市駅東広場とその周辺において、地元特産品の販売や、ステージイベントを実施する。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	1,101	1,088	0
決算額	事業費	0	0	-
	特定財源等	0	0	-

《主な内訳(令和3年度決算)》

【事業費】
報償費 0千円
需用費 0千円
役務費 0千円
委託料 0千円
使用料及び賃借料 0千円
【特定財源】

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	事業実施回数	単位	回	
指標の説明	事業実施回数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	1	0	0	
実績	0	0	-	

《事業の参考数値等》

令和2・3年度ともに新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、未実施。

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	来場者数	単位	人	
指標の説明	イベントへの来場者数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	3,500	0	0	
実績	0	0	-	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	C
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きくない。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	C
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	縮小・統合
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
本市では、これまで観光施策のひとつとして本事業に取り組んできたが、実質的に観光及び市特産品のPRとしての要素は低く、重ねて対外的な観光誘客のイベントとはなっていないことから、今後のあり方を考える必要がある。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
観光振興イベントは、今後一般財団法人大阪はびきの観光局が実施主体となるため、観光課の位置づけを再検討する中で、民間のノウハウを活かした効果的なイベントの在り方を探り、従来の賑わいの創出だけでなく、観光PR・シティブロモーションの推進を主眼に、新たなコンテンツの開拓・誘客の拡大も含め、本市の魅力を市内外に伝える事業へと見直す。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

事務事業コード 531-01-03

事務事業名		はびきのの夕べ開催事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先		内線2731	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	観光振興・都市間交流		款	7	商工費
	施策の方向	1	地域資源の活用と観光資源の創出		項	1	商工費
					目	3	観光費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	竹内街道及びその周辺の資産等					
	目的 (どうしたいか)	魅力を再生・創造し、広く発信することにより、地域に対する愛着や誇りを醸成し、地域全体の活性化を促進する。					
	手段 (事業内容)	駒ヶ谷駅西側公園及びその周辺において、街道沿線自治体のPR活動、代表的な特産品(食文化)や地域加工品や商品、ご当地グルメの出店及びステージイベントを実施する。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	2,682	2,698	2,645
決算額	事業費	0	0	-
	特定財源等	0	0	-

《主な内訳(令和3年度決算)》

【事業費】
報償費 0千円
需用費 0千円
役務費 0千円
委託料 0千円
使用料及び賃借料 0千円
【特定財源】

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	事業実施回数	単位	回	
指標の説明	事業実施回数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		1	0	0
実績		0	0	-

《事業の参考数値等》

令和2・3・4年度ともに新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、未実施。
【事業費(R4年度)】
報償費 150千円
需用費 430千円
委託料 1,743千円
使用料及び賃借料 322千円

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	来場者数	単位	人	
指標の説明	イベントへの来場者数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		6,000	0	0
実績		0	0	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	
		A	B
		A	A

総合評価	改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題) 新型コロナウイルスの感染状況に合わせた新たな実施方法を模索していく必要がある。	

今後の改善内容	(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 竹内街道活性化事業の一環として、継続して事業実施していくために、コロナ禍の生活様式に合わせた新たなイベントのあり方や、来訪者受け入れのための環境整備などを考えていかなければならない。また、観光課の位置づけを再検討する中で、SNSやイベントなどを通じて街道の知名度を高め、シビックプライドの醸成を図ることで、長期的な視点での地域活性化や歴史空間の保全に繋げていく。
---------	---

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

		事務事業コード		531-02-01	
事務事業名		華やいで大阪・南河内観光キャンペーン協議会事務事業		事務の種類 自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先 内線2743	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計 1 一般会計
	施策	3	観光振興・都市間交流		款 7 商工費
	施策の方向	1	地域資源の活用と観光資源の創出		項 1 商工費
					目 3 観光費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	地域住民及び国内外の観光客			
	目的 (どうしたいか)	大阪府及び南河内地域への来訪者を増やし、滞在を促す。			
	手段 (事業内容)	南河内8市町村、大阪府、公益財団法人大阪観光局、近畿日本鉄道株式会社、南海電気鉄道株式会社が協力し、PR事業・ウォーク事業・ウェブサイト運営など、観光宣伝及び観光客誘致事業を実施する。			

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	300	300	300
決算額	事業費	0	300	-
	特定 財源等	0	0	-

《主な内訳(令和3年度決算)》

【事業費】	南河内観光キャンペーン協議会負担金 300千円
【特定財源】	なし

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	イベント実施回数	単位	2回	
指標の説明		「観光PRキャラバン」及び「みなみかわち歴史ウォーク」		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		3	2	2
実績		0	2	-

《事業の参考数値等》

●みなみかわち観光デジタルスタンプラリー(歴史ウォーク):参加者 1,632人

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	イベント参加者数	単位	人	
指標の説明		イベント等への参加者数(来客)数		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		6,000	1,500	1,500
実績		0	1,632	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題) 自然と歴史が豊かな南河内地域は、ウォークラリーなどのコースに適しており、来訪者も増加している。また、本協議会が南河内地域をPRすることで、南河内地域への来訪者に対し、各自治体の魅力を知ってもらう機会を創出している。	

今後の改善内容	(令和4年度以後の事業実施への改善内容) ウォーク事業はスマートフォンを使用したデジタルスタンプラリー形式で実施予定(令和5年1月)。また、観光課の位置づけを再検討する中で、今後は観光局との連携のもと、南河内8市町村で連携を強化し、更なる魅力発信や事業が実施できるよう、新たな取り組みを検討する。
---------	---

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

		事務事業コード		532-01-01	
事務事業名		道の駅しらとりの郷・羽曳野管理事務事業		事務の種類 自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先 内線2731	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計 1 一般会計
	施策	3	観光振興・都市間交流		款 7 商工費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		項 1 商工費
					目 4 健康ふれあいの郷管理費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	施設			
	目的 (どうしたいか)	安全で快適に施設を利用できるように保つ。			
	手段 (事業内容)	環境整備(ごみ拾い、草刈、樹木管理、交通誘導、施設修繕等)、アジサイ・サクラ・園路のライトアップ、誘導員による駐車場整備、周辺道路の渋滞緩和につながる交通誘導対策(警備員の配置)			

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	30,232	29,686	35,581
決算額	事業費	23,629	23,199	-
	特定財源等	16,605	16,234	-

《主な内訳(令和3年度決算)》

【事業費】	道の駅しらとりの郷・羽曳野管理費 23,199千円
【特定財源】	電柱使用料 41千円 施設目的外使用料 2,484千円 (駐車場使用料、広場使用料) 市有財産貸付収入 11,430千円 道の駅周辺道路警備業務負担金 2,279千円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	施設面積	単位	㎡	
指標の説明		管理している面積		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		41,585	41,585	41,585
実績		41,585	41,585	-

《事業の参考数値等》

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	過失事故件数	単位	件	
指標の説明		施設内での事故発生件数		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		0	0	0
実績		0	0	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	受益者負担の割合は適正か。	見直しを検討する余地がある。	
		B	
		B	
		C	

総合評価	改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題) 来場者が、安全かつ快適に過ごせるよう環境維持に努める必要があるとともに、管理運営方法の改善が必要。	

今後の改善内容	(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 令和4年4月1日から指定管理者制度を導入。市直営から指定管理者による管理運営に移行した。観光課の位置づけを再検討する中で、所管課の移管を進める必要がある。
---------	---

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

		事務事業コード		532-01-02	
事務事業名		道の駅しらとりの郷・羽曳野運営事務事業		事務の種類 自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先 内線2731	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計 1 一般会計
	施策	3	観光振興・都市間交流		款 7 商工費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		項 1 商工費
					目 4 健康ふれあいの郷管理費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	来場者			
	目的 (どうしたいか)	羽曳野市の魅力を感じる施設づくりを目指すとともに、快適に利用できる施設整備を進める。			
	手段 (事業内容)	・アジサイやサクラに特化した名所づくりを通して来場者増加を狙う ・BBQ広場運営 ・Wi-Fiの利用(BBQ広場周辺) ・電気自動車急速充電器利用対象者の拡大 ・広告事業			

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	672	622	620
決算額	事業費	362	620	-
	特定財源等	1,618	1,051	-

《主な内訳(令和3年度決算)》

【事業費】
電気自動車急速充電器電気料金 215千円
急速充電器運用委託料 132千円
急速充電器捕手委託料 273千円
【特定財源】
急速充電器利用料 207千円
広告設置使用料 844千円
バーベキュー広場使用料 0千円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	施設開場日	単位	日	
指標の説明	年間の開場日数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		314	309	307
実績		311	305	-

《事業の参考数値等》

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	来場者数	単位	人	
指標の説明	BBQ広場利用者及び、各店舗のレジ通過者の合計			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		833,555	836,750	766,788
実績		836,750	766,788	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	C
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	受益者負担の割合は適正か。	見直しを検討する余地がある。	

総合評価	改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題) 来場者が、安全かつ快適に過ごせるよう環境維持に努める必要があるとともに、管理運営方法の改善が必要。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 令和4年4月1日から指定管理者制度を導入。市直営から指定管理者による管理運営に移行した。観光課の位置づけを再検討する中で、所管課の移管を進める必要がある。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

		事務事業コード		532-01-03	
事務事業名		観光案内所管理事務事業		事務の種類 自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先 内線2731	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計 1 一般会計
	施策	3	観光振興・都市間交流		款 7 商工費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		項 1 商工費
					目 3 観光費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	観光客等			
	目的 (どうしたいか)	来訪者が立ち寄りやすく、観光情報等を入手しやすい環境を整える。			
	手段 (事業内容)	市内観光用ガイドブックや各種パンフレットを配架し、観光スポットや特産品などの情報提供を行う。また、近鉄南大阪線古市駅に直結する古市駅東広場に位置することから、羽曳野の旅のスタート地点となるよう印象付ける。			

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和3年度決算)≫	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 観光案内所管理運営委託料 3,599千円	
当初予算額	事業費	3,700	4,008	4,196	【特定財源】 なし	
決算額	事業費	3,092	3,599	-		
	特定財源等	0	0	-		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			
指標名	開所日数	単位	日		
指標の説明		1年間に観光案内所を開所した日数(休所日:毎週木曜日及び12月29日~1月3日)			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標(見込)		307	307	308	
実績		308	258	-	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			
指標名	来所者数	単位	人		
指標の説明		1年間に観光案内所を来所した人数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標(見込)		6,500	2,500	4,000	
実績		2,397	2,813	-	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題) 令和3年度も令和2年度同様、コロナ禍における外出自粛の影響により、本市への来訪者や来所者数が大きく減少した。市の魅力発信拠点として、訪れた人が、また来たい、人に紹介したいと思われるような情報発信ができるよう運営していくことが必要と思われる。	

今後の改善内容	(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 市直営から一般財団法人大阪はびきの観光局へ委託することで、民間活力を活かし効率的かつ能率的に自主運営できるよう検討していく必要がある。
---------	---

【事業費】
観光案内所管理運営委託料 3,599千円

【特定財源】
なし

≪事業の参考数値等≫
新型コロナウイルス感染症対策のため、R3.4.25~R3.6.20の期間、観光案内所閉鎖。
令和4年度来所人数(見込み)については、R4.4月~9月の実績数+R3.10月~R4.3月までの実績数を概算して算出

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

		事務事業コード		532-01-05	
事務事業名		観光農園等管理事務事業		事務の種類 自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先 内線2731	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計 1 一般会計
	施策	3	観光振興・都市間交流		款 7 商工費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		項 1 商工費
					目 3 観光費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	来訪者			
	目的 (どうしたいか)	羽曳野市において栽培可能と思われる果樹を植え付け、産業振興に寄与する種類や品種を選定し、観光資源の発掘や地域の活性化等につながる事業を展開する。			
	手段 (事業内容)	かんきつ類、モモ、ナシ、カキなど多種異品種を栽培管理。樹木の成長に伴い収穫できた果実の1部について、市立の幼稚園の園児に収穫体験を実施。			

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	13,088	642	1,212
決算額	事業費	12,535	851	-
	特定財源等	0	0	-

《主な内訳(令和3年度決算)》

<p>【事業費】</p> <p>栽培指導謝礼 10千円 消耗品費 37千円 修繕費 350千円 水道料金 14千円 樹木等管理手数料 396千円 原材料費 44千円</p> <p>【特定財源】</p>

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	栽培本数	単位	本	
指標の説明		果樹栽培規模		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		119	119	0
実績		119	0	-

《事業の参考数値等》

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	事業推進率	単位	%	
指標の説明		栽培果樹の生育見込み達成度		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		100	0	0
実績		100	0	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	休止・廃止
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
令和3年度は伐根のための樹木等管理手数料及び防草シートの修繕費の予算措置のみとなっている。今後のあり方、管理運営方法の検討が必要と思われる。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
除草及び剪定手数料の予算措置のみとなっている。その他必要業務は職員にて実施。観光課の位置づけを再検討する中で、農園の位置づけを再検討する必要がある。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

事務事業コード 532-01-06

事務事業名		育苗施設管理事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先		内線2760	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	観光振興・都市間交流		款	7	商工費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		項	1	商工費
					目	3	観光費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市民					
	目的 (どうしたいか)	事業着手されていない公共用地の活用推進事業において、暫定的にビニールハウスを設置し花苗等の栽培を行ない緑化推進を図る。また、駒ヶ谷駅西側公園や観光農園と合わせて一体的な観光振興にかかる施設として活用する。					
	手段 (事業内容)	駒ヶ谷駅西側公園や道の駅等を修景する花苗の生産・育成。ビニールハウス内にて数種類のブドウを育成し、観光農園事業として取り組む。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	746	669	507
決算額	事業費	124	132	-
	特定財源等	0	0	-

《主な内訳(令和3年度決算)》

【事業費】
消耗品費 52千円
電気料金 45千円
原材料費 27千円
等
【特定財源】

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	配布実施回数	単位	回	
指標の説明		公共施設やイベントで配布した回数		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		0	0	0
実績		1	0	-

《事業の参考数値等》

令和3年度
配布実績・・・公共施設0回
イベント配布0回
※令和3年度は花苗育成作業は行っておりません。

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	生産量	単位	ポット	
指標の説明		花苗等の栽培ポット数		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		6,000	0	0
実績		6,700	0	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	見直す必要がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きくない。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合が可能である。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	休止・廃止
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
令和2年度でみよりの里への業務委託が終了。令和3年度では、観光課職員で週2回程度のぶどう等の水やり管理するが、花苗等の育成は行っていない。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
育苗以外のハウス使用方法を検討。
○ハウスの解体
○地域農家へ貸出
・果樹狩り
・大粒ぶどう(シャインマスカットなど)栽培
など

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

事務事業コード 532-01-07

事務事業名		駒ヶ谷駅西側公園管理事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先		内線2731	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	観光振興・都市間交流		款	8	土木費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		項	4	都市計画費
					目	3	公園費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	来園者					
	目的 (どうしたいか)	駒ヶ谷地区の活性化に寄与する拠点としての施設・機能の充実とともに、地域情報の発信基地としての役割構築および、地域のにぎわいを創出する公園づくりを目指す。					
	手段 (事業内容)	子ども遊具(つぶたん遊具等)や顔出しパネル、シェルター(日除け)、ベンチ等の公園施設および駐車場の維持管理。はびきののたべなどイベント会場として活用。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	3,067	3,827	0
決算額	事業費	2,329	1,944	-
	特定財源等	1,446	2,196	-

《主な内訳(令和3年度決算)》

【事業費】
消耗品 30千円
電気料金 268千円
駐車場機器保守及び管理 1518千円
修繕費 45千円
水道料金 23千円
機械警備委託料 60千円
【特定財源】
駐車場使用料(駒ヶ谷駐車場) 2,196千円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	開園日	単位	%	
指標の説明	適切な管理運営達成度			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		100	100	100
実績		100	100	-

《事業の参考数値等》

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	事業進捗率	単位	日	
指標の説明	利用者が利用できる日数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		365	365	365
実績		365	365	-

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。		B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。		B
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。		
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。		

総合評価	完了
(担当部局による総合評価の理由や課題) コロナ禍の影響もありイベントの実施はないが、地域住民の憩いの場になっている。	

今後の改善内容	(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 令和4年度から担当部署が観光課から道路公園課に移管されているため、観光課での予算措置無し。
---------	---

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

事務事業コード 532-02-03

事務事業名	観光ボランティアガイド育成事務事業			事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線2731	
担当部署名	観光課			予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち		款	7	商工費
	施策	3	観光振興・都市間交流		項	1	商工費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		目	3	観光費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市民等(市外居住者を含む)					
	目的 (どうしたいか)	羽曳野市の歴史と文化に関心を持ち、観光客などへの観光ガイドを主とするボランティア活動への意欲を有し、観光ボランティアガイド活動に積極的に参加する市民等(市外居住者を含む)の養成をする。					
	手段 (事業内容)	ガイドになるための座学や現地学習の体験を通して、羽曳野市の歴史や文化に理解と愛着を深めてもらい、羽曳野市の魅力をたくさんの方に伝えていただく。(ガイド養成講座等の開催)					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	300	300	300
決算額	事業費	300	141	-
	特定財源等	0	0	-

※主な内訳(令和3年度決算)※

【事業費】	観光ボランティアガイド育成業務実施委託料140,685円
【特定財源】	なし

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	養成講座等	単位	回	
指標の説明	養成講座等実施回数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		5	6	4
実績		4	0	-

※事業の参考数値等※

令和4年度実施計画書から、ボランティアガイド養成研修会
①講座 10月 1月
②見学会 10月 1月
の計4回

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	観光ボランティアガイド養成人数	単位	人	
指標の説明	観光ボランティアガイド登録人数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		25	25	25
実績		21	21	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	C
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
観光ボランティアによる観光ガイドは、地域の活性化や交流、教育面など、様々な役割を担っている。今後観光局ができること、アフターコロナに向けた観光事業の活性化が重要になってくることもあり、来訪者に百舌鳥・古市古墳群を含む、当市の魅力を十分に知っていただくことが重要になってくる。その中で、観光ボランティアガイドが担っている役割は非常に重要なため、今後も引き続き、新規ガイドスタッフの募集や経験の浅いメンバーに対する研修会の実施が必要である。	

今後の改善内容	(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
令和3年度はコロナウイルスの感染状況の影響で、新規ガイドを募集するための養成講座を実施できなかった。今後のアフターコロナを見据えた観光事業活性化のためにも、令和4年度は感染症対策を十分に行ううえで、実施していきたい。以降については、観光局が実施主体となって運営していく。	

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

		事務事業コード		542-02-01			
事務事業名		ご当地キャラクター活用事業		事務の種類			
				自治事務(任意のもの)			
				連絡先			
				内線2760			
担当部署名		観光課		会計			
				1			
				一般会計			
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	款	7	商工費
	施策	4	シティプロモーション		項	1	商工費
	施策の方向	2	まちの魅力の戦略的・効果的な発信		目	3	観光費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市民等					
	目的 (どうしたいか)	地元への愛着と、市政への関心を持ってもらい、また、市外からの誘客を促す。					
	手段 (事業内容)	羽曳野ご当地キャラクターつぶたんの市行事及び各種イベント等への参加、市の印刷物へのキャラクターデザイン画像の使用、グッズ販売、SNS投稿など、人々の目に触れる機会を増やし、親近感を持ってもらう。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
当初予算額	事業費	115	99	99
決算額	事業費	78	77	-
	特定財源等	0	0	-

《主な内訳(令和3年度決算)》

【事業費】
修繕費 0千円
役務費 77千円
【特定財源】

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	つぶたん稼働率	単位	回	
指標の説明	着ぐるみ等の表出回数(市行事、イベント等への参加や、SNS発信など)			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		50	20	40
実績		15	22	-

《事業の参考数値等》

成果指標の令和4年度目標値の下方修正について、「つぶたんグッズ」を製作・販売する羽曳野市観光協会が令和4年度中に解散予定のため、新たなグッズ製作は行わないことと、販売が終了することを理由とする。

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	つぶたんグッズ売上額	単位	円	
指標の説明	つぶたんグッズの年間売上額			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		50	150	60
実績		117	147	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	
		A	A
		A	A

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
平成23年に誕生した、羽曳野市ご当地キャラクター「つぶたん」は、今では幅広い年代に認知され、地域に根付いたキャラクターとなっている。コロナ禍により行事・イベント等は中止となったため、キャラクターが直接人と触れ合う機会は減っているため、SNS等による情報発信やグッズ展開など、積極的に取り組む。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
より効果的なPRを目指し、経年劣化で可動性の低い既存の着ぐるみを令和4年度中に新調し、運用マニュアルの策定や、不足するアクターの養成をすることで、活動及び貸出回数を増加させ、より効果的なPRツールとして活用する。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

		事務事業コード		542-03-08	
事務事業名		はびぎの探訪フォトラリー実施事業		事務の種類 自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先 内線2760	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計 1 一般会計
	施策	4	シティプロモーション		款 7 商工費
	施策の方向	2	まちの魅力の戦略的・効果的な発信		項 1 商工費
					目 3 観光費
事業の概要	対象(誰を・何を)	市民及び市外からの来訪者			
	目的(どうしたいか)	小規模分散型の観光のニーズが高まっていることから、フォトラリー形式での市内の見どころ巡りを提案することにより、継続して羽曳野市を訪れていただけるきっかけづくりや長期滞在による消費行動を促進することを目的とする。同時に、市民の、地元再発見、運動不足解消、健康づくりのきっかけづくりを目指す。			
	手段(事業内容)	羽曳野市らしさが伝わる既存の『羽曳野ガイドマップ』掲載の35の観光スポットを巡りながら撮影された写真を、任意で応募者が選んだもの5枚、応募していただき、あらかじめ事務局が観光スポットに付与した得点によって、獲得したポイントの合計が高い方に特産品等の賞品をプレゼントするもの。また、参加記念として観光スポットカードを配布する。			

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和3年度決算)≫	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】	
当初予算額	事業費	-	475	514	記念品代 0千円	
決算額	事業費	-	357	-	印刷製本費 198千円	
	特定財源等	-	0	-	委託料 159千円	
					郵便料 0千円	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	観光スポットカード作成	単位	枚	
指標の説明	観光スポットカードの作成枚数(18種類)			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	-	18,000	18,000	
実績	-	18,000	-	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	申込者数	単位	人	
指標の説明	同イベントの参加希望者数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	-	100	100	
実績	-	0	-	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	縮小・統合
(担当部局による総合評価の理由や課題) 新型コロナウイルス感染症の影響により、一定数の参加者が見込めず、実施に至らなかった。	

今後の改善内容	(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 令和4年10月1日に設立した一般財団法人大阪はびぎの観光局との連携のもと、歴史遺産の知識が豊富な観光ボランティアガイドなどの日頃の活動と結びつけるなど、より楽しんで参加していただける仕組みを検討する。
---------	--

【事業費】	記念品代 0千円
	印刷製本費 198千円
	委託料 159千円
	郵便料 0千円
【特定財源】	

≪事業の参考数値等≫	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、未実施。
------------	--------------------------

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

事務事業コード 631-05-01

事務事業名		竹内街道活性化事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		観光課		連絡先		内線2731	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	歴史・文化		款	2	総務費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		項	1	総務管理費
					目	5	企画費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	竹内街道及びその周辺の資産等					
	目的 (どうしたいか)	魅力を再生・創造し、広く発信することにより、地域に対する愛着や誇りを醸成し、地域全体の活性化を促進する。					
	手段 (事業内容)	本市単独での取組みの他、大阪府・大阪市・堺市・松原市・羽曳野市・太子町・奈良県・葛城市・大和高田市・橿原市・桜井市・明日香村からなる12の沿道自治体などで組織を形成し、府県の枠組みを越えて連携しながら、街道の活性化に向けた取組みを行う。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和3年度決算)≫	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 負担金 200千円	
当初予算額	事業費	266	200	200	【特定財源】 なし	
決算額	事業費	200	200	-		
	特定財源等	0	0	-		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	会議の開催回数	単位	回	
指標の説明		実行委員会及び幹事会等の開催回数		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		6	6	6
実績		5	6	-

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	実行委員会全体としての事業数	単位	事業	
指標の説明		実行委員会にて計画されている関係自治体が連携して行っている事業数		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		6	5	4
実績		3	6	-

【事業費】
負担金 200千円

【特定財源】
なし

≪事業の参考数値等≫

令和4年度の事業計画
・街道まつり
・フォトコン作品リレー展示
・近鉄連携ガイドウォーク
・HP管理、パンフレット・ノベルティなどの在庫管理、協賛企業・藝大との連絡調整

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
日本遺産である竹内街道の認知度を高め、当市の観光資源の一つとして発信していくうえで、広域連携しておこなっている当事業が担っている役割は非常に大きい。今後も、コロナウイルス感染状況に合わせて、引き続き事業継続していく必要がある。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
はびきのの夕べなどの当市独自の事業なども含め、コロナ禍の生活様式に合わせたイベントの新たな実施方法を見直していく必要がある。また、SNSやイベントなどを通じて街道の知名度を高め、シビックプライドの醸成を図ることで、長期的な視点での地域活性化や歴史空間の保全に繋げていく。